

管内の百名山 「苗場山」



苗場スキー場から見た苗場山

苗場山（2,145㍍）は、上信越高原国立公園内の東側、新潟県と長野県の県境に位置しています。

苗場山の特徴は、山頂に広がる10平方キロメートルにも及ぶ高層湿原の存在です。湿原には数百をこえる池塘（小さい沼）があり、ヤチスゲ、ミヤマホタルイなどの植物が生えています。その景観がまるで「神様が苗を植えた場所」のようであることから「苗場山」と名付けられました。また、山頂からは谷川連峰、妙高山などの上信越の山々をはじめ、遠くに佐渡島を展望することもできます。



苗場山頂



山頂に広がる高層湿原



初冬の小松原湿原

登山ルートは複数あり、^{はらいかわくち}祓川口（和田小屋）からの登山ルートが一般的です。登山コースからは、オオシラビソの原生林やベニサラサドウダン等の高山植物を多数観察することができます。他には、秘湯として知られる天然露天風呂：赤湯温泉を経由するコース、平家の落人伝説で知られる秋山郷から入る小赤沢コース、小松原湿原を経由するコースがあります。

また、苗場山の周辺地域は、ロープウェイ、スキー場が整備され、秋は紅葉鑑賞、冬はスキーと、登山だけでなく四季を通じて自然を楽しめる一大観光エリアとなっています。



雷清水



かぐらスキー場

この地域は大変雪の多い所であり、雪の多い年は7月中旬頃まで雪が残ることもあります。多雪地における植生調査地としても重要で、中越森林管理署では苗場山の中腹にブナ林の試験地や施業指標林を設定し、森林総合研究所、大学が中心となり40年前から調査研究が進められています。

当署では、森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ）によって^{たいらっぴょうやま}平標山の保全管理活動を行っていますが、平成21年度からは、苗場山にも範囲を広げて活動しています。平成22年度には、登山コース周辺に樹名板を設置し、苗場山の素晴らしい自然を伝えるとともに、登山者へマナーの大切さを呼びかけていきたいと思ひます。

（中越森林管理署 酒井 文子）